

## 玩具④

- 当館所蔵の中国玩具は、収集された時期により、
- ① 二代真柱・中山正善が中国巡教中に買い求めたもの、あるいは1945年以前に天理教の布教師や信者、および天理大学教員らが中国で収集したもの
  - ② 玩具コレクターの岸本五兵衛が戦前に収集したもの
  - ③ 1945年以後の寄贈や当館学芸員が収集したもの
- の3種に分けることができる。

各種の概数は①約300点②約2,000点③約350点である。見ての通り、②に分類される中国玩具が圧倒的に多い。約2,000点という数は、戦前の中国玩具コレクションとして国内有数の規模であり、世界でもこれだけの資料群を持つ施設は少ない。

そこで今回はコレクターに焦点を当て、2,000点もの玩具を集めた岸本五兵衛と、現地で実際に中国玩具を収集して岸本に提供した須知善一という、二人の人物を紹介する。

岸本は1897年に大阪府で生まれる。生家は海運業（岸本汽船株式会社）を営んでおり、五兵衛は3代目社長である。彼は岸本汽船社長以外に銀行頭取や保険会社社長などを兼任し、大阪では指折りの資産家であった。子供の頃から玩具を好んだ岸本は、その財力を背景に、国内はもちろん、海外からも膨大な数の郷土玩具を収集した。そのコレクションは玩具のみならず、世界各地の民俗資料にまで及んだ。中には大型の資料も含まれていたが、彼自身が海運業を営んでいたため、自社の船舶やネットワークを利用して容易に自宅まで運ぶことができた。ただし岸本は多くの役職を兼務していて多忙であるため、直接現地に赴いて収集活動をしたとの記録はほとんどない。故にコレクションの大部分は、仲間のコレクターから譲り受けたり、玩具商から購入したものだった。

このようにして集めた玩具や民俗資料は、兵庫県武庫住吉村にあった岸本の別邸で保管された。そこには小さな私設ギャラリーがあり、親しい人を招いて自慢の資料を披露することもあったという。これらの収集品については、岸本編集による「ねずりこ子寿里庫叢書」と名付けられた四巻からなる図録、および『南方共榮圏の民藝』（1943年発行・図1）に於いて詳しく述べられている。なお岸本が玩具に関する文章を書く際は、本名ではなく「岸本彩星」または「岸本彩星童人」のペンネームを使用した。

資料の増加に伴いコレクションを公開したいと考えた岸本は、私設博物館の構想を練り、建設に着手した。しかし完成まであと一歩というところでアメリカ軍による空襲を受け、博物館と資料の多くは焼失してしまう。そのショックもあり、終戦直後の1946年に岸本は病死する。しかし一部のコレクションは幸いにも難を逃れ、さまざまな人物の仲介を経て1955年に参考館へ移管された。

2013年現在当館にある「岸本コレクション」の概数は、中国の玩具約2,000点、その他地域の玩具数百点である。民俗資料は中国約160点、東南アジア約180点、その他地域のもの約数百点となっている。これらは焼失を免れた資料の中のほんの一部であり、本来のコレクションはどの程度の規模だったか、

今となつては想像もつかない。当時の文献から推測すると、おそらくこの数倍は存在したであろう。資料の大部分が失われたのは痛恨の極みであるが、現存のものだけでも、他に例が少ない貴重なコレクションである。

ところで前述の通り、岸本の膨大なコレクションは彼自ら現地へ赴いて収集したものではなく、多くは玩具商やコレクター仲間からの提供によるものであった。その中で、中国玩具を岸本に提供した人物が須知善一である。

須知は1897年に京都の丹波地方に生まれる。その後大阪の貿易会社で勤務しつつ、さまざまな「趣味の会」に所属し、国内で版画や郷土玩具を収集していた。1925年には中国の大連に住み、大豆の仲買人として働く。この頃から中国の郷土玩具に興味を持ち、大陸各地を訪れて玩具を買い集めるようになる。

当時の中国は交通網が未発達だったため、玩具の収集活動は困難を極めた。しかし彼には関東軍（当時中国東北部に駐屯していた日本陸軍部隊）幹部との人脈があり、軍のサポートを受けられたので、交通の便がない僻地や治安の悪い地域へも足を運ぶことができたようである。こうして須知は中国大陸各地を約20年かけて駆け巡り、約50,000点の玩具を集めた。中国大陸で玩具を探した日本人コレクターは他にも数人いたが、その中で須知のコレクション数は群を抜いていた。

当初、これらは大連にある須知の自宅に保管されていた。だがコレクションが日々増加し、ついに収蔵しきれなくなったため、彼は一部を玩具商に売却したり、親しい仲間に譲り渡したりした。ここには岸本五兵衛へ送ったものも多数含まれている。

しかしこの華々しい収集活動は、1945年の敗戦により終了する。大連にソ連軍が攻め込んで来たため、須知はコレクションを放棄して本土へ引き揚げざるを得なかった。帰国後は各地を転々とし、煙草や郵便に関するものを収集していたが、1980年頃鳥取で没したという。

以上、本稿では当館の中国玩具コレクションを収集した岸本五兵衛と須知善一について簡単に紹介した。彼らが精魂込めて集めたコレクションを大切に整理・保存し、研究を続けていくことは、我々の使命だと考えている。

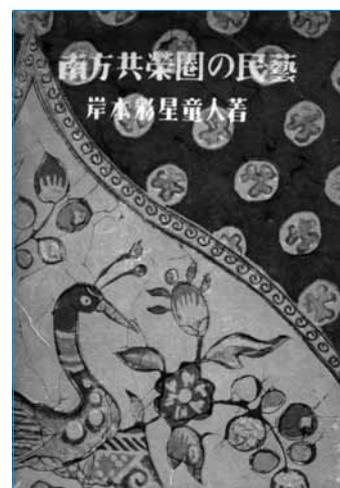


図1 『南方共榮圏の民藝』表紙